

令和6年8月27日

加西市議会議長 丸岡弘満 様

清流会・かさいを育む会  
幹事長 森元 清蔵

## 調査研究報告書

下記のとおり行政視察研修を行いましたので、報告いたします。

### 記

1. 調査年月日 令和6年7月31日(水)～8月2日(金)
2. 視察先 鹿児島県霧島市、鹿屋市、大崎町
3. 出席者 森元清蔵・森田博美・佐伯欣子・下江一将・深田照明・橋本真由美
4. 視察内容等
  - ◇霧島市 7月31日(水) 14:30～16:30
    - (視察項目) 霧島市こども館事業について
    - (視察対応者) 保健福祉部子育て支援課 小橋主幹  
霧島市こども館 甲斐館長
    - (視察内容) 別紙
  - ◇鹿屋市 8月1日(木) 10:00～11:30
    - (視察項目) 農福連携について
    - (視察対応者) 議会事務局 塩屋次長、繁昌主任  
農林商工部農政課 尾崎係長、篠原主査  
社会福祉法人敬心会 郷原理事長、山口本部事務長  
(株)ひまわり農苑 結城取締役
    - (視察内容) 別紙
  - ◇鹿屋市 8月1日(木) 12:40～15:30
    - (視察項目) 戦争遺跡について
    - (視察対応者) 農林商工部ふるさとPR課 前田課長補佐、櫛間係長
    - (視察内容) 別紙
  - ◇大崎町 8月2日(金) 9:00～11:00
    - (視察項目) リサイクルの取り組みの成り立ちについて  
脱炭素の取り組みについて
    - (視察対応者) 環境政策係 寺原主事  
合作株式会社 高橋
    - (視察内容) 別紙
5. 所感 (別紙)
6. 添付資料
  - ① 視察行程表
  - ② 研修資料
  - ③ 写真

(視察内容)

## 霧島市 (鹿児島県)

【 視察項目 】 霧島市こども館事業について

【 目的 】 子ども館の開館までの取り組みと、運営、集客方法を学ぶ

【 内容 】

### ◇開館までの経緯

- ・平成30年5月 こども館設置検討委員会及びこども館設置検討専門部会の立ち上げ
- ・平成30年9月～10月 子育て世代を中心にアンケート調査を実施
- ・配布数4,384 回答数2,899 回答率66.10%
- ・市民アンケートを踏まえ、検討委員会等で設置場所・設置方法等を協議して市長へ提案  
市民アンケートには、雨が降っても親子で遊べる場所が欲しいと言う要望あり。  
また、交通利用は、車利用が90%以上だった。

↓

国分ハイテク展望台を有効活用しこども館を整備

- ・令和3年7月16日 こども館開館

### ◇整備概要

#### ◎設置目的

子育て環境の充実や遊びの体験を通じて子どもの幼児期における基礎体力を向上させ、並びに子どもの発想力及び想像力を育成し、その健全な成長を図ることを目的に設置。

#### ◎遊具及び運営事業者の選定

7名の市民が参画し、行政職員を含む13名からなる選定委員会を設置。プロポーザル審査を経て屋内・屋外遊具の整備事業者及び運営事業者を決定。

委託管理者は、エルグテクノ。契約社員は9名(常勤7名、パート2名)

常時6名勤務(内、館長1名、幼保免許者3名)

#### ◎整備費用 合計183,636千円。

特定財源は、県地域振興推進事業、森林環境譲与税事業から合計53,156千円。

(国の補助はなし)

#### ◎こども館の概要

愛称：すかいぴあ(全国から応募があった111点から選ばれた)

開館時間：9時30分～17時 休館日：毎週火曜日 入館料：市内・市外問わず無料

施設面積 ・建築面積：590.89㎡ 延床面積：769.16㎡

・1階 遊戯室(ハイハイ・よちよちルーム)52.09㎡

テラス62.0㎡ レストラン131.54㎡

・2階 遊戯室(からだ・うんどうルーム)65.32㎡

遊戯室(えほん・ちいくルーム)65.32㎡

・3階 展望・休憩スペース101.46㎡

### ◇利用者の状況(利用者の会員登録状況)

令和6年4月で10万人を越える入場利用者があった。

・開館から令和6年6月末までの登録総数 13,011組

うち登録している子どもの数 20,247人

・登録者の内訳 ■霧島市 4,345組 ■県内他市町村 6,626組 ■他県 2,040組

## 鹿屋市（鹿児島県）

【 視察項目 】 農福連携について

【 目的 】 農福連携推進事業の取り組みと農福連携の実例に学ぶ

【 内容 】

### ◇農福連携に係る鹿屋市の方針

令和3年度に実施したアンケートやネットワーク会議等の結果、農業者は施設外就労に対して福祉事業所の農作業に対する熟度不足による作業依頼の難しさを感じている点や、福祉事業所は自社農園型の農福連携への取り組みへの支援を求める事業者が多いことがわかった。

・そのようなことから、まず福祉事務所が自社農園型の農福連携に組み、施設や障がい者の熟度に応じて施設外就労や雇用就労へとステップアップできるよう支援を行う。

### ◇鹿屋市の取り組み

- ①農福連携技術支援アドバイザー派遣事業(令和2年度～5年度)（令和6年度は休止）  
農業技術を学びたい福祉事業所が、ベテラン農家から無償で農業技術に係る指導・助言を受ける。→実績は、令和2年度：2件。
- ②農福連携マッチング支援事業（令和3年度～5年度）（令和6年度は休止）  
農業者が委託者となり、福祉事業所と農作業受委託契約を締結して行われる農作業に係る経費に対して2分の1補助（作業日数40日が上限）→実績は、令和3年度：1件
- ③福祉作業所自社農園型農福連携モデル事業（令和4年度）  
自社農園で農福連携に取り組む福祉事業所を支援し、福祉事業所における農産物の生産・出荷・販売等の実証を行う。10aあたりの栽培に対し、90,000円の委託料を支払う。  
→実績は令和4年度：3件（令和5年度より農福連携スタートアップ支援事業へ）
- ④農福連携スタートアップ支援事業（令和5年度～）  
農福連携に取り組む勤労継続支援B型事業所へ農業資材等の導入に対して2分の1補助（上限100万円）→実績は、令和5年度：3件、令和6年度：3件申請中。
- ⑤農福連携ネットワーク会議（令和3年度～）  
障がい者の社会参画による農業者の労働力不足の解消と、農福連携に取り組む事業者の支援体制を構築するに当たり、福祉事業所から広く意見・助言等を求める。  
→年1～2回開催。構成員は、福祉分野6事業所。

### ◇ひまわり農苑（敬心グループの株式会社）視察

- ・「ひまわり農苑」平成17年設立
- ・ひまわり農苑は、自社で農産物の生産を行うほか、グループ内の保育園や学童クラブを対象に田植え・稲刈り体験やさつまいも植え付け・掘り体験を実施。総作付面積5ha。農福連携の現場では、グループ事業所「太陽の丘」の施設外就労先として取り組んでいる。
- ・農福連携を通じて、これからも多様な人たちと共に、誰一人取り残さない。関わるみんなが自己実現やチャレンジできる場所づくりをめざす。
- ・敬心グループは、児童福祉部門、高齢者福祉部門、教育福祉部門、障がい者福祉部門、生産部門、加工部門、販売部門、総合商社部門がある。  
農福連携に取り組むきっかけ ～ゆりかごから、はかばまで～ 総合福祉の実現。
- ・敬心グループの「自立支援センター太陽の丘（就労継続支援B型事業所）」が令和3年度鹿屋市農福連携マッチング支援事業の委託先として事業実施をした実績がある。
- ・「自立支援センター太陽の丘」は令和6年度農福連携スタートアップ支援事業の申請を検討中。

### ◇かやの郷（農産物直売所自立支援センター）視察

農産物直売所の運営をA型事業所の利用者で行っている。農家の商品委託販売と商品管理。また、自分たちで、農家の野菜を使わせていただき、お弁当やしそジュース販売も行っている。

## 鹿屋市（鹿児島県）

【 視察項目 】 戦争遺跡について

【 目的 】 遺跡の保存方法や展示の工夫、市民への取り組みを学ぶ

【 内容 】

### ◎鹿屋の戦争遺跡

戦時中、鹿屋には3つの飛行場（笠野原、鹿屋、串良）があり、遺跡が多く残っている。

#### 鹿屋基地エリア

昭和11年に鹿屋海軍航空隊が開隊して以降、上海渡洋爆撃から終戦に至るまで、海軍の重要基地として活動し続けました。

昭和16年真珠湾攻撃の作戦計画が練られた「鹿屋会談」が鹿屋基地内で行われ、対米戦争が始まるきっかけとなった。

昭和20年2月に第五航空艦隊司令部が鹿屋に設置され、鹿屋から各基地へ特別攻撃の命令が下されるようになった。

鹿屋基地から日本で最も多い908名の特別攻撃隊員が出撃し、戦死した。

##### ①鹿屋航空基地資料館

海軍航空の歴史資料館。旧海軍創設期から第2次大戦、現在の海上自衛隊の活動に至るまでの資料が展示されている。

②小塚公園…鹿屋基地から出撃し戦死した特別攻撃隊員908名の慰霊塔がある。

#### 串良エリア

串良基地は戦争末期に教育航空隊として開隊され、昭和19年4月に実戦部隊に編入され、昭和20年3月から特別攻撃隊の基地として使用。363名の特別攻撃隊員と210名の一般攻撃隊員がここから出撃し戦死している。

①地下壕電信室…串良基地から飛び立った特攻隊員が突撃直前に送った最後の電信を受信していた地下壕。

②平和公園…串良基地から飛び立ち戦死した特別攻撃隊員・一般攻撃隊員を祀る慰霊碑塔が建立されている。

#### 笠野原エリア

笠野原飛行場は、大正11年に大刀洗陸軍飛行場の離着陸用の民間飛行場として誕生。

①川東掩体壕…敵機の空襲等から飛行機を守るために作られた格納庫。

## 大崎町（鹿児島県）

【 視察項目 】 リサイクルの取り組みの成り立ちについて・脱炭素の取り組みについて

【 目 的 】 リサイクル率12年連続日本一の取り組みと考え方を学ぶ

【 内 容 】

### ◇リサイクルの町から世界の未来をつくる町へ

◎人口 12,006 人 世帯数 6,545 世帯（令和 6 年 4 月 1 日現在）

面積 100.64 km<sup>2</sup>、農業が主幹産業、ふるさと納税日本一（平成 27 年度）

◎大崎リサイクルシステムのはじまり

焼却施設がないために、3つの選択肢があった。

①焼却炉の建設⇒建設費・維持費の問題があり×

②新たな埋立て処分場の建設⇒周辺住民の理解が得づらいため×

③既存の埋立て処分場の延命化⇒○

◎大崎リサイクルシステムとは

埋立て処分場の延命化という目的達成のため、住民と行政と企業の3つの主体が協働・連携することで信頼関係が構築され大きな効果を生み出す仕組み。

#### ■行政の役割

・システム（法律）の整備 ・収集したゴミの出口（最終処分先）確保

・ゴミ出し日、時間、場所、収集ルートの設定

・分別品目を定める ・環境学習会の開催

分別を開始する時、町は150の地域で約450回の説明を行った。

今でも年1回150の地域リーダーへの研修会を行っている。

#### ■住民の役割

・家庭・事業所できれいに分別する。

・分別したゴミを出す。

・ステーションで種類ごとに出す。

#### ■企業の役割

・行政の委託によるゴミの回収 ・ゴミの検査。検査後は商品として出荷

■家庭ゴミの正しい分け方と正しい出し方を徹底する。令和6年度より紙おむつ（紙パンツ）が分別品目に加わった。

■プラごみは一括回収。堆肥化は65%。

#### ■菜の花エコプロジェクト

資源の循環⇒家庭の生ゴミから堆肥、燃料、菜の花石鹸等へ。

混ぜればゴミ、分ければ資源、28品目分別。

リサイクル率 84.0%（令和 4 年度実績）15 回目の日本 No.1

## ◎大崎リサイクルシステムのメリット

- ・埋立ゴミ量の削減
- ・一人当たりのゴミ処理経費の削減

住民がゴミを分別しリサイクルすることで、一人当たりのゴミ処理経費は全国平均の約 2/3 で処理できている。全国平均と比較して年間約 7 千万円が節約され、福祉や教育等他の分野に使われることで、財政的に大きな効果が得られている。低コストで持続可能な資源循環型の廃棄物処理システムである。

- ・資源ゴミ売却益金の発生

資源ゴミの一部は有料で売却できるものがある。令和 4 年度で約 920 万円が町の収入になっている。現在までの売却益金の合計は、約 1 億 7000 万円。

平成 30 年 11 月から、売却益金を活用して【リサイクル未来創生奨学金制度】を開始。

- ・雇用の増加

リサイクルセンターでは、近隣自治体も合わせて 100,000 人分の資源ゴミを取り扱っており、40 人程度の雇用が生まれている。

## ◎大崎町からインドネシアへ

- ・平成 24 年度～26 年度 住民参加型一般廃棄物処理技術開発普及事業  
草の根技術協力事業（地域提案型）
- ・平成 27 年度～28 年度 資源循環型まちづくり技術支援事業  
草の根技術協力事業（地域活性化特別枠）

## ◎日本と世界の未来を育むリサイクル留学生プロジェクトの展開

### ◇大崎町の掲げる構想

#### ◎サーキュラービレッジ構想

- ・2024 年までを第一期としておよそ 10 億円をかけて、資源循環型のモデル都市（サーキュラービレッジ）整備事業を実施。
- ・その予算として企業版ふるさと納税を活用

#### ◎紙おむつのライフサイクルと技術開発

- ・大崎町・志布志市・ユニ・チャーム・そおりリサイクルセンター協働の実証実験
- ・現在埋立てられているゴミの 1/3 が紙おむつ
- ・リサイクルできれば大崎町の埋立処分場のさらなる延命化につながる
- ・日本は紙おむつの輸出大国
- ・環境配慮型の取り組みの推進へ

#### ◎生まれてきた視点（日本の焼却炉は、1016 施設（令和 4 年度末）他国に比べすぎる）

- ・サーキュラー・エコノミーを意識したとき、大崎町でできていることは消費と分別だけだった。
- ・大崎町の生活をもっと便利にすること。大崎町の外にこのシステムを広げること。
- ・もっと上流の企業と一緒に循環の仕組みを作る必要がある。

## ○霧島市 「霧島市こども館事業について」

市街地から離れた高台にあり、前方に桜島が見え眺望の良い場所にありました。元は国分ハイテク展望台であったのを改修して、令和3年7月よりこども館として開館されている。子育て環境の充実や遊びの体験を通して、子どもの幼児期における基礎体力の向上と子どもの発想力・想像力の育成、その健全な成長を図ることを目的とされている。エルグテクトに業務委託されていて、常時6人勤務体制で充実した運営がされている。親子で来て室内、室外の施設で遊びながら楽しんで子育てができているようでした。加西市も土地と自然を生かして、のびのび遊べる無料のこども館も必要である。

## ○鹿屋市 「農福連携について」

農福連携を進めるにあたり、市として、まず福祉事業所に農業参入してもらうための支援事業を始められているところがすばらしい。ベテラン農家によるアドバイザー派遣事業、農業者から農作業受託を受け、その農作業の経費補助事業、自社農園で農福連携をした場合の農産物栽培補助事業と段階に応じて補助事業を推進されている。農政課と福祉課が連携して進められている。

敬心グループの存在が農福連携を大きく進めている。児童福祉部門、高齢者福祉部門、教育福祉部門、障がい者福祉部門、生産部門、加工部門、販売部門、総合商社部門のそれぞれの会社を統合運営されている。理念として「私共は幼児・障がい者・お年寄りなどの弱い立場の方々が農業を主軸に支えあって暮らせる総合福祉事業に取り組んでいます。」とされています。

加西においても福祉事業者が自社農園をしたり、農業事業者が農福連携ができるように、それぞれの課題を出し合って、市としてのビジョンを作成し、支援していく必要がある。

## ○鹿屋市 「戦争遺跡について」

空がつなぐまち・ひとづくり推進協議会のメンバーである鹿屋市の取組を知りたいと思っていて、やっと訪れることができた。加西市からは遠く離れているが、特攻隊員は鶴野飛行場で訓練を受け、宇佐で待機し、串良基地から出撃し戦死されている。こうした過去のつらい歴史の事実を知り、平和を守っていく取り組みがそれぞれの市で行われているので、横の連携を強めていかねばならないと思う。鹿屋市は、3つの飛行場があって、その遺跡も点在していて、全体を見て廻ることは難しいように思えた。その点、加西は鶴野飛行場周辺に遺跡がかたまって残されているので、sora かさいを中心に、全ての遺跡を觀てもらえるよう工夫していく必要がある。

## ○大崎町 「リサイクルの取り組みの成り立ちについて、脱炭素の取り組みについて」

平成16年(2004年)に、生ごみ・草木などの有機物の埋め立て処分の禁止を定め「町内の有機物はすべてごみではなく資源である」と宣言をして取り組まれているのがすばらしい。住民の話し合いの末に、ごみの分別と生ごみ回収、そのたい肥化を実現されている。紙おむつの回収とそのリサイクルも実証実験がされている。

大崎リサイクルシステムを国内だけでなく海外も技術協力をしながら普及しようとしている。今一度、ごみ焼却ではなく、分別して資源化していくことや、ごみの減量への視点を持ち努力していくべきと感じました。

**①鹿児島県霧島市『霧島市こども館事業について』**

緑豊かな自然に恵まれた環境の中、櫻島と錦江湾を一望できる好立地に展望台をリニューアルして開設されている。その景観は見事で圧倒される。街中から離れた施設であり自家用車が不可欠。利便性の苦情等はないかと質問したが、ほとんどないとのこと。

子育て世代を中心にアンケート調査を実施して検討委員会等で設置場所・設置方法等を協議して市長に提案して実現している。

リニューアル施設ではあるが屋内外の遊具はすばらしい。市民アンケート調査結果が生かされ、雨天時でも様々な世代が活用できる工夫も運営も学ぶ所は多い。愛称の『すかいびあ』は全国公募、入館料・使用料は市内・市外問わず無料。4つのフォトコーナーが大人気とのこと。とにかく自然を活用し施設内も細部に工夫がなされており、加西市にも独立したこども館・児童館が必要と思う。

**②鹿児島県鹿屋市『農福連携について』**

農業技術を学びたい福祉事業所が、ベテラン農家から無償で農業技術に係る指導・助言を受ける農福連携技術支援アドバイザー派遣事業から、農福連携マッチング支援事業、そして農福連携ネットワーク会議を開催して障がい者の社会参画による農業者の労働力不足の解消と農福連携に取り組む事業者の支援体制を構築するために福祉事業所からの意見や要望を求めながらきめ細かい取り組みが継続されている。そして施設の熟度に応じた展開の中で有効な施策を展開されている。

その成功例として『ひまわり農苑』が事業展開されている。ステップアップできる事業展開、それに応じた行政の支援の取り組みには学びたい。

**③鹿児島県鹿屋市『戦争遺跡について』**

遺跡の視察の前に、航空基地資料館を駆け足で見学、多数の展示品や「零式艦上戦闘機五二型」と旧日本海軍創設期から先の大戦、現在の海上自衛隊に関する資料は貴重なものばかり。資料館の屋外には海上自衛隊で活躍した航空機も多数展示され規模の大きさに圧倒された。

遺跡群は広範囲に点在しており、川東掩体壕、串良基地跡地下壕電信室、平和公園を見学したが移動時間が予想以上にかかった。戦跡のガイドは、鹿屋市が認定したガイドで主に学校の平和学習や団体ツアー、個人旅行で案内し有料。遺跡巡りにはタクシーかレンタカーが必要で効率が良いとのこと。

鶴野の平和資料館は規模が小さく遺跡もコンパクトに集約されていることから、さらに知名度を高めて平和学習に利用していくべきと思う。

**④鹿児島県大崎町『リサイクルの取り組みの成り立ちについて、脱炭素の取り組みについて』**

混ぜればゴミ、分ければ資源として28品目を分別、リサイクル率84%の実績で15回目の日本一を獲得。建設費・維持費の問題から焼却炉の建設は無理、周辺住民の理解が得にくいので新たな埋立処分場は無理、既存の処分場を延命化するために分別ルール策定と150地域への450回を超える説明会を開催しながら今でも年1回150の地域リーダー研修会に取り組んでいる、海外への技術指導、リサイクル留学生プロジェクトも凄い。リサイクルをSDGsの視点から再定義等の取り組みは学ぶ点が多い。

### 1. 鹿児島県霧島市（霧島市こども館事業について）

視察で訪れるまで、なぜ、こども館が山の高台に位置するところにあるのか。住民は不便さを感じないのかを尋ねたいと思っていた。現地を見て、国分ハイテク展望台を活用され、櫻島と錦江湾を一望できる素晴らしい自然環境に恵まれたこども館に感動した。開館までに市民アンケート調査を実施。アンケート調査を踏まえ検討委員会で協議され市長へ提案されている。市民の要望も反映され、交通手段は90%以上の市民が車との回答も地域性を感じた。運営は業務委託をされているが、行政との話し合いもしっかりとされ、施設内外の工夫は半端ではない。市内・市外問わず無料であるのも魅力の一つ。令和3年7月16日に開館されてから令和6年4月で10万人を超える入場利用者だという。市外からの利用者も多く、大人にとっても子ども達にとってもなくてはならない場所となっている。加西市にも加西市ならではのこども館はあるべきだと思う。

### 2. 鹿児島県鹿屋市（農福連携について）

まず、鹿屋市が農福連携についての方針をしっかりと出されたことが重要である。その基となったのが令和3年度に実施したアンケートの結果から、福祉事務所が自社農園型の農福連携に取り組み、施設や障がい者の熟度に応じて施設外就労や雇用就労へとステップアップできる支援を実際に取り組みされていることだ。敬心グループひまわり農苑の理念は、農福連携を通じて、これからも多様な人たちと共に、誰一人取り残さない。関わるみんなが自己実現やチャレンジできる場所づくりをと一貫して熱意あるものだ。福祉事業所の思いにしっかりと支援を行われている行政の姿勢は見習うべきものがある。

### 3. 鹿児島県鹿屋市（戦争遺跡について）

鹿屋基地は、日本で最も多くの特攻隊員が飛び立った場所であり、当時鹿屋周辺には、いくつかの基地があった。歴史をたどるには短い時間であったが、事実だけは忘れてはならないだろう。

終戦後の混乱の中、昭和20年9月3日に進駐軍の先遣隊が鹿屋基地に降り立った。翌4日、進駐軍アメリカ海兵隊2,500人が高須の金浜海岸に上陸。当時、鹿屋の多くの人々が進駐軍を恐れて、山間部に逃れたと言われている。行政はこの戦争遺跡エリアをしっかりと整備されている。

加西市の鶴野飛行場跡地は今も長い滑走路が現存し、平和資料館は小さいながらも平和学習の場所として行政や観光協会共に積極的に進んでいくことだと思う。

### 4. 鹿児島県大崎町（リサイクルの取り組みの成り立ちについて、脱炭素の取り組みについて）

大崎町がリサイクルシステムを構築され、住民、行政、企業が一体となって努力されてきた効果は大きい。まさに、リサイクルの町である。住民に対して行政からの粘り強い説明会には、頭が下がる。大崎町の凄いところは常に目標に向かって努力しているところである。この度、驚いたことは、紙おむつのライフサイクルと技術開発に取り組まれていることである。埋め立てられるゴミの1/3が紙おむつだということも初めて知ったが、大崎町だけではできないことでも、他市や大きな企業と一緒に環境の仕組みへの取り組みを推進されている。リサイクルからSDGsの取り組みは貪欲に学ぶべきものである。

**【鹿児島県霧島市】霧島市こども館事業について**

こども館への道中、標高約 200m の台地に位置することからアクセスの不便さが利用に影響すると考えた。しかし、施設建設前に実施したアンケートによると多くの方が自家用車でアクセスすると回答しており、この立地で問題ないと選考委員会で判断された。そして、決め手となったのは「子どもたちを自然の中で遊ばせたい」という子育て世代の声である。

このように施設の場所選定において、利用者の意見を反映させる姿勢は、本市においても庁舎の増築や小中学校の再編、学校跡地利用、新病院の建設を進める際に見習うべきである。

また、この事業の財源は国や県の補助がなく、ふるさと納税の基金が大部分を占めている。本市の屋内型遊戯施設アスにも同様の課題があり、ふるさと納税の将来性が不透明な中、財源確保について慎重に検討する必要がある。

**【鹿児島県鹿屋市】農福連携について**

農家や福祉事業所のニーズを的確に捉えたマッチングの難しさや農家側の指導に時間がかかるという課題を解決するための参考となる事例であった。鹿屋市では、福祉事業所が自社農園型で農福連携を開始し、その後、施設外就労や雇用就労へと段階的にステップアップできるような支援を行っている。また、そういった事業者を支援するために令和 5 年度から「農福連携スタートアップ支援事業」が開始され、その年には 3 件の実績があった。こうした取り組みを通じて農福連携の機運を高める手法が本市においても必要だと考える。

現場視察で訪れた施設では農福事業に対する強い情熱を感じた。熱意を持ち、社会貢献を目指す事業者は地域にとって欠かせない存在である。本市でもこのような事業者と連携し、共に取り組む必要性を再確認した。

**【鹿児島県鹿屋市】戦争遺跡について**

鹿屋市に残る戦跡は、いくつかのエリアに分かれており、自家用車以外で訪れる方にとってアクセスが難しい状況にあると感じた。いかに周遊してもらえるかが課題であり、効果的な手段の模索が必要である。修学旅行についても、県外からの受け入れがない状況で、その理由として宿泊施設の不足が挙げられた。一方で、これらを踏まえると、本市の戦跡は周遊しやすい距離にあり、少し距離はあるものの宿泊施設も存在する。本市においては、平和学習の場として、また地域活性化の拠点としての役割を果たすため、連携する自治体や市内の他の取り組みと組み合わせながら面的に推進していただきたい。

**【鹿児島県大崎町】リサイクルの取り組みの成り立ちについて、脱炭素の取り組みについて**

大崎町のリサイクル率が日本一である背景には、行政、企業、住民の信頼関係がある。際立つ例として、リサイクルの分別を開始する際、町は 150 の地域で約 450 回の説明を行った。現在も年に一度、150 の地域リーダーに対して研修会を実施している。また、構想をビジョンマップとして可視化し、イメージを共有している。これにより、リサイクル率が向上し、一人当たりのゴミ処理経費が削減され、福祉や教育分野への投資が可能となった。

細かな取り組みを検討することも重要であるが、まずは目指す方向性を一致させることが求められる。本市においても、どこに向かっているのかを住民や企業、行政職員に対して明確に示すべきであると考えます。

また、本市のリサイクルについても住民に公開されている情報を見る限りでは、熱心に取り組まれているとは言い難い。持続可能な社会を目指す上で、本市においても力を入れて取り組むべき重要なテーマであると再認識した。

**【鹿児島県霧島市】 霧島市こども館事業について**

霧島市こども館(すかいぴあ)は令和3年7月に開館以来、市内外をもとより宮崎県など県外からも合わせて年間3万人を超える人々が来られている。

なぜ児童福祉施設である「こども館」にこんなにも多くの来場者があるのか不思議であったが、まさに立地の要因が大きいと現地に行って確認できた。それは霧島市所有の国分ハイテク展望台の老朽化を逆手に取り、全天候型の「こども館」をつくられたところにある。展望台という名の通り高台に位置し、正面に雄大な錦江湾と桜島の全景がひろがり、眼下には霧島市中心部を望める素晴らしい景観はまさに観光地そのものであった。

こども館の室内からも桜島がきれいに見え、室内遊具や図書室、室外遊具の利用もすべて無料というのは、子ども達をここで遊ばせ、レストランで食事をして一日ゆっくりしたいという保護者や観光客のニーズにあっていると強く思った。

なお、市街地からは20分以上かかる不便なこの地に「こども館」をつくるかどうかは子育て世代を中心とした家庭にアンケートを実施し、多くの設置希望の意見を受け、議会審議を経てこの地に決まったとのことであった。運営は福祉法人の委託業者が担い、幼稚園教諭3名、保育士3名、教員1名の免許保持者の方7名を含め9名で運営されていた。未就学児が楽しく過ごせる場所づくりが主で、ママさん教室やこどもたちが集団でふれあうサークル教室的な押し付けの運営は考えておられず、あくまで子ども達が自由に自然の中で遊ぶことをサポートするという考え方の運営はリピーターを増やす要因にもなっていると思う。

加西市にはこのような海が見える高台はないが、丘や小川など自然にあふれた場所である丸山公園などの管理事務所の改築などで、霧島市のような雰囲気を作り自由に遊べる「こども館」を作る構想も、将来的な人口増と観光開発を目指す観点からは十分検討する価値はあると考える。

**【鹿児島県鹿屋市】 農福連携について**

鹿屋市では令和2年度から農福連携技術支援アドバイザー派遣事業、3年度は農業者と福祉事業所のマッチング支援事業、5年度は農福連携に取り組むB型事業所への農業資材等購入補助制度を導入して農福連携推進を図られている。

この取り組みに協力されている「ひまわり農苑」の見学で、農福連携の基本は障がい者の方の幸せが第一で、障がい者自らが農業分野で活躍することを通じて、自信や生きがいを持って社会参画をしてほしいと言われる担当者の熱い言葉に胸を打たれた。「ひまわり農苑」の母体は保育園、グループホーム、障がい者支援施設など多くの福祉事業を展開されている社会福祉法人で、決して経営的には儲からない農福連携にも積極的に協力していきたいと言われる理事長の思いが、職員にも障がい者の方にも強く届いていると感じた。

実際の畑では障がい者とスタッフの方々10名ほどが夏の日差しの強い中、青唐辛子の収穫を黙々とされていた。普通の農家であれば涼しい早朝や夕方の収穫をされるが、B型事業所の勤務時間の関係から炎天下でも収穫などをせざるせないということであった。皆さん、休憩を取りながら自分のペースでやられていて楽しそうであった。青唐辛子という特産品の開発に取り組み、ただ働く場の提供だけではなく収益事業として成立させ、いくらかでも給料としてお金を還元する仕組みを作っておられるのは本当にすごいと思った。また収穫された野菜などは直売所で販売されていたが、そこでも商品配置やレジ打ち、軽食の調理や配膳もグループ内のA型事業所の障がい者の方が担っておられた。

農業の一貫性として毎日継続的に作業ができること、働く喜びが感じられる作業工程の工夫、そして収穫物を障がい者の方が販売、調理することで社会参画を図る取り組みを確立するために、スタッフがあたたかく支えておられる姿に感動した。やはり福祉事業は単なるビジネスではなく、相手の立場と心を理解し寄り添う姿勢が無いと継続は難しいと改めて感じたが、担当者の熱意が高い鹿屋市では農福連携が今後も続いていくと思った。

加西市においても肥沃な大地を使った野菜作りがさかんであり、後継者不足という観点からも障がい者の方が働き、社会参画の機会を増やす場としての農福連携をよりすすめていくべきであると考える。

### 【鹿児島県鹿屋市】 戦争遺跡について

鹿屋市は姫路市、宇佐市、錦町、加西市とともに空がつなぐまち・ひとづくり推進協議会メンバーの市として、戦争の歴史を保存し平和な未来を創っていく思いが自然に感じられるまちであった。それは鹿屋航空基地資料館前の観光物産総合センターで昼食を頂いたが、その時に調理をされている方とお話する機会があり、鹿屋市の特攻隊や飛行場の話をされて、sora かさいのことをもっと知りたいと言われたので、まさに平和を守ると言う思いは皆さん一緒であると改めて感じた。

戦跡の地下壕第一電信室は鶉野の巨大防空壕や指令室よりも深く掘られていて、特攻として飛び立っていった若者たちの最後の電信を受けて、突撃が成功か失敗を判断する重要な場所で多くの方が働いておられたが、今は静けさと冷気が漂う場所であった。また串良平和公園慰霊塔の鳩のモニュメントに平和を祈念される多くの人々の思いを感じた。

加西市も子供たちに平和教育をしているが、個々を大切にし相手を思いやる心をより育む教育の推進が大切であると考えている。

### 【鹿児島県大崎町】 リサイクルの取り組みの成り立ちについて、脱炭素の取り組みについて

大崎町は人口 12,000 人の小さな町で自前のゴミ焼却施設が無く、ゴミのほとんどを埋め立てで処分されていたが、処分場の残余年数が近年のゴミの増加と法改正などで当初より早く逼迫する状況になることがわかり、焼却炉や新たな処分場の建設も検討されたが建設費、維持費の課題から既存の埋め立て処分場の延命化を図る方針に転換された。このことを住民説明会で何度も説明し、理解を得てゴミの減量と分別によるリサイクル効率の向上を実現されている。

住民はまず自宅でごみを分別・保管、定期的に集積ステーションにて種類ごとに再分別し回収、また町内の集積所での回収も利用されている。そのゴミ分類では生ゴミが 23%、草木剪定くずが 42%と多く、このふたつのゴミはたい肥化などで有効活用されている。その他、プラスチック、空き瓶、雑誌・古紙、金属、ペットボトルなどに分別して回収、処理場でより細かく 28 品目に分別されている。

この確かな分別方式を支えているのは行政とは別組織の大崎町衛生自治会という組織で 150 を超える単位の住民団体が自らゴミ分別の品目や効率化を考え、地域リーダーを決めて指導する体制を確立されている点がとてもすごいと思った。

最近、処理機器を更新して近隣の志布志市 宮崎県日南市などからもゴミを集め、分別を細かくすることでより資源化を図り収益アップをされている。また焼却炉が無いので二酸化炭素の排出量も少なく、生ごみのたい肥化は SDGs に直結している。

加西市も草木剪定くずはたい肥化を図っているが生ゴミを加えることが出来れば、償却ゴミの減量につながるのではと考える。そして、何よりも地域単位でゴミ分別を考える組織があれば、市民がお互いにゴミ減量を考えたり、高齢者の方のゴミ出しを手助けするなど助け合いの精神もより向上するのではと思う。ゴミ問題は永遠のテーマであり、高齢化と温暖化がすすむ将来の対策を今後とも加西市とともに私も考えていきたい。

**【鹿児島県霧島市】 霧島市こども館事業について**

霧島市のこども館すかいびあは、自然に囲まれた環境の中で、親子で遊ぶことが出来、未就学児の子育て世代が交流するには本当にいい施設であった。場所は元展望台を有効活用されており、本当に景色も良く素晴らしい施設であった。一階に赤ちゃんのスペース、二階は室内遊具、三階には展望休憩ルームもあり、ゆったりと時間を過ごせると思った。年齢に応じた知育や運動も出来る施設で年齢別のママ達が交流出来るのでとてもいい施設だと思った。当市でも子育て施設もあるが、室内外でのアスレチックがとても魅力と感じた。

**【鹿児島県鹿屋市】 農福連携について**

鹿屋市農福連携推進事業について農福連携を通して、障がい者に就労の機会を提供し、農家の労働力の確保につなげ、地域の農業の維持発展を図ることを目的とされていて、農福連携を市としても取り組まれていた。福祉分野の事業所ともきちんと連携を取り、ネットワーク会議や農福連携マッチング支援事業やスタートアップ支援事業をしたりと、障がい者の社会参画を含め、細かな支援と、農業資材、農業機械、農業施設の導入補助をしたりして、市がしっかりと農福連携をすることで広がりを見せている。市が農福連携を推進することで農福連携する事業者も増え、浸透しているという事だったので、やはり市が福祉事業ともつながりを持つことが必要と考える。事業所も見させていただいたが、加工場や販売部門を置き、そこを就労継続支援事業所としているので、その人その人に合った場所での就労もできるため、本当に自立を目指した支援となっていると思った。当市でも農家さんの高齢化からくる後継者問題、また福祉の方々の働き口の少なさなども課題である。そこに、市が関わっていく事で、事業所が農業の問題にも協力でき、連携を取ることで、ある程度の課題は解決へと向かうことが出来る。やはり連携体制の必要性を感じた。

**【鹿児島県鹿屋市】 戦争遺跡について**

川東掩体壕や地下壕電信室などを見させていただき、まだ戦争遺跡が残っている、という面で加西市と空がつながりまちとしても繋がっている。平和学習の意味を持ち、若者がその時代をどう生きていたのか、忘れてはならないと感じた。平和をどう学ぶかは目で見、肌で感じながら学ぶことも大切だと感じた。

**【鹿児島市大崎町】 リサイクルの取り組みの成り立ちについて、脱炭素の取り組みについて**

大崎町では、ごみの分別がとても細分化されており、その取り組みは自治会を巻き込みしっかりと納得した上でされている。ごみの分別に関して地域リーダーへの研修会を行ったり、家庭や地域でしっかりと分別されたものを出すことをされている。リサイクル率84%15回目の日本一を取られている。世界から見ても日本は焼却炉の数も多く、環境にもよくないと言われている。脱炭素の取り組みについても、有機農業を推進するためバイオ炭を活用されており、生ごみを堆肥化させる事であったり、リサイクルできるものはしていく、ごみと言われるものを循環させていく事が大事。

企業とつながり、オムツのごみも令和6年4月から分別対象になり水平リサイクルと言われる、オムツからオムツへと生まれ変わらせる事もされていた。当市としてごみ減量化機器設置補助金もあるが、市民の協力も不可欠であるが、市としても深い議論をしないといけないと思う。

## 清流会・かさいを育む会 行政視察 行程表

### 7月31日(水)

08:30 発 加西市役所：議員駐車場集合  
09:30 着 伊丹空港  
10:55 発 伊丹空港 (JAL2407)  
12:05 着 鹿児島空港 (※以降、レンタカー)  
(昼食)  
14:10 着 霧島市役所  
14:30～16:30 霧島市視察  
「霧島市こども館事業について」

※市役所⇄子ども館は霧島市様公用車利用

宿泊 アパホテル国分 TEL0995-47-5588 霧島市国分中央3丁目41番23号

### 8月1日(木)

08:15 ホテル出発  
09:45 着 鹿屋市役所  
10:00～11:30 鹿屋市視察①  
「農福連携について」  
(昼食)  
12:40～13:40 鹿屋航空基地資料館見学  
14:00～15:30 鹿屋市視察②  
「戦争遺跡について」

※現場視察箇所へは全てレンタカーでの移動となります。

宿泊 さつき苑 TEL0994-40-1212 鹿屋市西原1-9-10

### 8月2日(金)

08:10 ホテル出発  
09:00 着 ジャパンアスリートトレーニングセンター (待ち合わせ場所)  
※大崎町様迎え  
09:00～09:10 大崎町様公用車で移動  
大崎町視察「リサイクルの取り組みの成り立ちについて」  
「脱炭素の取り組みについて」  
09:10～9:40 そおりサイクルセンター見学  
09:40～09:50 移動 (ジャパンアスリートトレーニングセンターへ)  
10:00～11:00 役場座学 (ジャパンアスリートトレーニングセンター内)

(昼食)

17:35 発 鹿児島空港 (ANA550)  
18:45 着 伊丹空港  
20:00 着 加西市役所



霧島市



鹿屋市



大崎町